

リンカーン・フォーラム 公開討論会

2023統一地方選挙プロジェクト報告

1. 要旨

リンカーン・フォーラムは 2023 年第 20 回統一地方選挙（2023 年 3 月～4 月告示、4 月 9 日、23 日執行）において、104 回の公開討論会を実施しました。全国で行われた 979 回の選挙（首長選挙 233 回、議会議員選挙 746 回、無投票の選挙を含む）のうち、討論会が行われた選挙は約 1 割（10.62%）という結果に留まりました。

開催地域を見ると、東北、関西、山陰、四国、九州地区では開催されなかった県が目立ち、うち岩手、滋賀、島根、香川、大分など 9 県は 2021 年衆院選に続いて一度も開催されませんでした。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況が落ち着きを見せる中、前回の衆院選では全体の約 1 割ほどだった通常の有観客形式での開催数が、今回は 6 割を超えるまでに復活してきたことは明るい兆しです。

また、今回も主催者の多くは青年会議所（JC）が担いましたが、学生や一般市民グループが奮闘、運営面で様々な工夫や取り組みも見られたものの、実際に会場に足を運んだ聴衆は少なく、特に集客面では大きな課題が残った今回の統一地方選挙となりました。

2. 開催状況

●開催数

- ・ 開催数 104 回

内容	開催回数
告示前公開討論会（有観客）	63 回
告示前公開討論会（有観客）※LM 型	2 回
告示前ネット討論会（無観客）	14 回
告示前テレビ討論会（無観客）	1 回
告示後ネット討論会（無観客）	9 回

合同・個人演説会（有観客）	0回
開催形式不明	15回

- ・ 開催選挙区数、開催討論会回数 104選挙区、のべ104回

※その他、非リンカーン・フォーラム方式、又は同方式か未確認のものとして、徳島県知事選、静岡市長選など計7回の公開討論会の開催が確認されている。

- 候補者出席状況（集計対象：80回、出席者数不明の24回除く）

出席者総数	310人／80回
出席者平均	3.875人／回
出席率	86.82%（296人要請、257人参加）

※出席率は出席要請者数、出席承諾者数のデータが揃っている事例のみから計算

- 来場者数全国計 3,425人（集計対象：22回）

- 来場者平均人数 155.68人（集計対象：22回）

- 来客数の状況会場候補者出席状況（集計対象：16回）

会場総定員数	10,150席
来客者総数	2,705人
来場率（会場満席率）	26.65%

- 企画数（実行委員会数） のべ114企画（組織）、うち、10企画（組織）は開催断念

- 開催がなかった都道府県

（岩手）、宮城、福島、（滋賀）、奈良、（和歌山）、鳥取、（島根）、岡山、（山口）、（香川）、愛媛、高知、佐賀、（大分）、（宮崎）、（沖縄）

※（ ）は2021衆院選でも開催がなかった県

3. 分析結果

(1) 開催数は前回より増加、首長選挙、道府県議会議員選挙の開催が多い

- 全979回の選挙（無投票の選挙を含む）のうち、104回（開催率=10.62%）

開催された。

●うち、実際に投票が行われた 746 回の選挙で公開討論会が行われた選挙に限ると、開催率は 13.62%と若干アップするが、1割強に留まる。

●また、これを「首長選挙」と「議会議員選挙」に分けて見てみると、「首長選挙」が 58 回（全体の 55.76%）、「議会議員選挙」が 46 回（44.23%）と、首長選挙のほうが多く開催されていることが分かる。

●さらに、46 回の「議会議員選挙」を「道府県議会議員選挙」と「市区町村議会議員選挙」に分けて見てみると、「道府県議会議員選挙」が 33 回（全体の 71.73%）、「市区町村議会議員選挙」が 13 回（28.26%）と、「道府県議会議員選挙」が「市区町村議会議員選挙」の約 2.5 倍多く開催されていることが分かる。

●以上からは、主催者が「議会議員選挙」での開催を敬遠していること。議会議員選挙で開催する場合も「道府県議会議員選挙」に偏る傾向があること。その理由として、選挙区当たりの定数が一問一答＋反論形式で開催できる範囲の少ない定数で開催もしやすいからではないかと予想される。

●前回の選挙（2019 統一地方選、982 回）の開催数 71 回（開催率＝7.23%）からは、開催数、開催成功率ともにアップした。

【前回との開催増減率】

選挙時期	開催数	開催率
前回（2019 年）	71 回	3.32%
今回（2023 年）	104 回	10.62%
増減率	△33 回	△7.3%

●ここ 20 年の統一地方選挙での開催数、開催企画数（＝少なくとも実行委員会設立の呼びかけがあった数）の推移は、下表のとおり。2019 年には開催数、開催企画数ともに最低となったが、今回は若干持ち直した数字となった。

【直近 20 年の統一地方選挙での公開討論会開催数、開催企画数推移】

統一地方選挙	開催数	開催企画数 ^{※1}
2003 年	124 回	168 回
2007 年	141 回	180 回
2011 年	96 回	154 回
2015 年	116 回	129 回

2019年	71回	85回
2023年	104回	114回

※1 実行委員会の設立呼びかけ中、設立準備中を含む。実行委員会未発足は含まない。

●開催成功率（＝開催数/開催企画数）は 91.22%と高かったが、開催企画数は全選挙数の約 1 割強（11.57%）に留まり、実に 9 割の選挙では実行委員会が立ち上がらなかったか、または実行委員会設立の呼びかけも行われなかった。

●開催がなかった都道府県は 17 県に及んだ。うち 9 県は 2021 年の衆院選でも一度も開催がなかった。

(2) 開催数・開催企画数減少傾向の要因

●前回 2019 年より若干持ち直したとはいえ、開催数、開催企画数は漸減傾向にある。様々な要因が考えられるが、第一には統一率の低下が要因にあると見られる。2003 年には 36.26%だった統一率は、今回は 27.54%まで低下。このうち、首長選に限ってみれば、13.37%にまで低下している。

●また、無投票の選挙も増えており、そもそも選挙にならないため公開討論会も開かれないうところも増えている。全 979 回の選挙のうち、2 割を超える（23.79%）233 回は無投票であり、市長選挙、町村議会議員選挙は約 3 割（それぞれ 28.4%、33.0%）、町村長選挙に至っては 5 割を超える（56.0%）選挙が無投票となっている。

●2021 年の衆院選時の分析と同様、企画・主催団体の中心となっている全国の青年会議所組織の状況（メンバーの減少、公開討論会への取り組みそのものに対する関心の低下など）も要因の一つにあると考えられる。

(3) 開催断念（中止）の要因

●開催断念数（＝開催企画したが、断念した数）は 10 回、断念率は 8.77%だった。

●断念した要因として、立候補予定者が 1 名のみで無投票となったため開催を断念（中止）した事例が 4 件あった（長野県諏訪市長選、神奈川県議選座間市選挙区など）。

●参加を表明した立候補予定者 2 名のうち 1 名が新型コロナウイルスに感染したため中止となった事例も 1 件あった（函館市長選）。

●立候補予定者 2 名の参加表明があったものの、3 名以上でないと開催しないとの自主規制から開催を断念した主催者があった（栃木県議選佐野市選挙区／佐野 JC）。

(4) 開催形式－通常の有観客開催が復活

●新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況が落ち着きを見せる中、前回の衆院選では全体の約 1 割だった有観客開催が、今回は全 104 回開催のうち 6 割を超える 65 回（62.5%）にまで復活した。

●一方、無観客のネット討論会、テレビ討論会は、告示前後合わせて 24 回（23.07%）開催された。うち、10 回は、東京 JC 各区委員会が主催、ニコニコ生放送ライブ配信で行われた各区長選挙だった（東京都北区長選、墨田区長選など）。

(5) 主催者－JC 主催が多いが、学生や一般市民グループ、学生も奮闘

●主催の多くは青年会議所（JC）が担い、全 104 回のうち 85 回と全体の 8 割（81.73%）を占めた。

●一方で、学生や一般市民グループの奮闘も目立ち、東京から Uターンした 30 代を中心としたグループ（長崎市長選、佐世保市長選）や、別の地域の公開討論会を実際にみて自分の町でもやってみようかと企画した人たち（群馬県榛東村長選・村議選補選）が主催した例も見られた。

(6) コーディネーター

●リンカーン・フォーラムへのコーディネーター派遣要請は、全 114 回企画のうち 3 割強（33.33%）の 38 件となった。うち、開催断念等によりキャンセルとなった 5 件を除く 33 件でコーディネーターを担当した。

●相模原市議選では、同日、同時刻に 3 会場に分かれて同時開催され、リンカーン・フォーラムからは各会場に 3 人のコーディネーターを派遣した。また新潟市議選では、同日、同時刻に 4 会場に分かれて同時開催、コーディネーターは主催者である新潟 JC の 4 人の副理事長が務めた。

(7) 有観客公開討論会復活も、会場の空席が目立つ？！

●有観客の公開討論会が復活傾向にあったものの、来場率（来客者総数÷会場総定員数）は26.65%と、平均で会場の1/4程度しか聴衆がいない（※但し、データの標本数は全63回のうち14回分）。集客への関心が薄い主催者も多く見られた。

(8) 主催者の様々な工夫、取り組みあれこれ

●若者の集客を目的に、討論会場でマルシェ開催やオープニングセレモニーで太鼓演奏。新聞や自治体アプリの無料掲示板を利用した告知を行う（広島県議選・府中市神石郡選挙区／府中JC）。

●市内の高校生にチラシ、ポスターを配布（埼玉県議選・埼玉県北第4区選挙区／熊谷JC）。

●3人の立候補予定者のうち1人が輪番でコーディネーターになり、20分の持ち時間で他の方に質問していくという討論形式を採用（愛知県議選・新城市北設楽郡選挙区／公開政策討論会を実現する会（新城市民有志と各立候補予定者陣営有志による））。

●市内の高校生グループと地元新聞社がタッグを組んでの共催（兵庫県芦屋市長選／芦屋市内の高校生でつくるグループ「あしや部」＋神戸新聞阪神総局）。

●市内中高生らを優先入場（神奈川県平塚市長選／平塚JC）。

●間に15分休憩をはさみ、同会場で村長選（90分）と村議選補選（30分）とを連続開催。村長選の立候補候補予定者3人のうち2人が欠席のため、ピンチヒッターとして、村議選補選討論会出席者の3人が出席（群馬県榛東村長選・村議選補選／しんとうむらの明日を考える会）

●進行を、前半の政策提示で各候補者が10の政策から自由に1つ選ぶという形で2巡する、途中で視聴者からの感想を紹介しながら進めるという形式（長崎県長崎市長選、佐世保市長選／（一社）長崎みんな総研）。

●野外会場での青空討論会（大阪府高槻市長選／高槻JC）。

●PayPayで開催のための募金、協賛を依頼（福岡県大木町議選／大木町の未来

づくり実行委員会)。

●主催もコーディネーターも大学生が行う（福岡県田川市長選／福岡県立大学生）。

●複数の選挙、選挙区の討論会を同時開催（北海道斜里町長選・斜里町議選／斜里 JC、新潟県議選燕市西蒲原郡選挙区、三条市選挙区／燕三条 JC）

●同日、同時刻、別会場での複数・同時開催（神奈川県相模原市議選／相模原 JC、新潟市議選／新潟 JC）

(9) その他

●町長選で公務員（地域おこし協力隊）の一人が主催しようと試みたが、周囲からの批判もあり、町役場との交渉に大変な苦労を要した。結果としては、町長の理解も得て、開催時に本人が退職、実行委員会代表からは降りた状態で討論会を開催した（徳島県那賀町長選／2023 年那賀町長選挙の公開討論会を実現する町民の会）。

●実行委員会の代表者、委員会メンバーも自民党員の団体が村長選で実施。代表者用件を満たさず後援申請は却下したものの、開催支援依頼を受けアドバイスを行い、リンカーン・フォーラム方式で運営、開催された（長野県小谷村長選／小谷村の未来を語る会）

以上